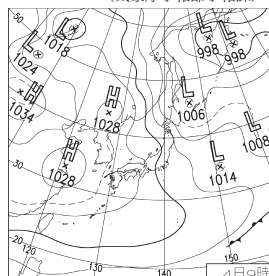


# 日々の天気図

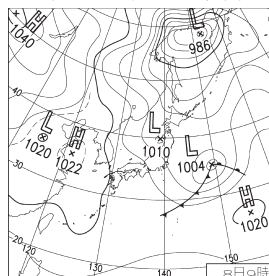
— No. 72

2008年1月

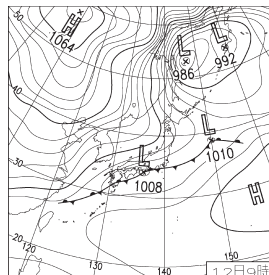
- ・1日, 強い冬型気圧配置で大雪, 群馬県みなかみ町藤原70 cm, 新潟県湯沢町57 cmの日降雪量。
- ・24日, 発達した低気圧が通過し, 青森県深浦町31.8 m/sの瞬間風速。
- ・25日~27日, 冬型気圧配置, 青森市酸ヶ湯, 山形県大蔵村で共に76 cmの日降雪量を観測。  
(気象庁予報部予報課)



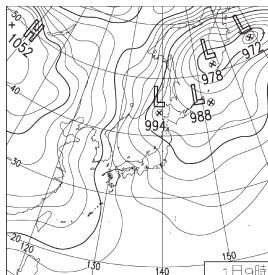
**4日(金)北日本 冬型強まる**  
北日本で一時的に冬型強まる。北日本の日本海側～山陰にかけては雪や雨, その他は概ね晴れ。関東では最高気温が3月上旬～中旬並。前橋市で平年より23日早くツバキ開花。



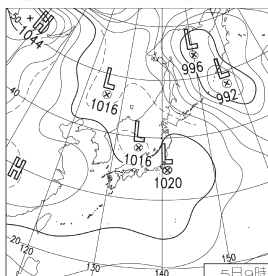
**8日(火)前橋4月上旬の暖かさ**  
北陸から北日本の日本海側は曇りで所により雨や雪。太平洋側は晴れて穏やかな天気。前橋市の15.4℃など関東以西の最高気温は平年より3~6℃程度高い3月中旬～4月上旬並。



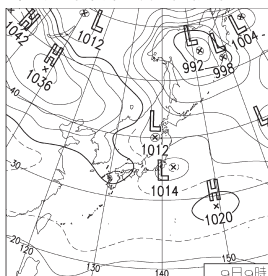
**12日(土)低気圧の影響**  
南岸に伸びる前線上を低気圧が東進し, 西日本から東日本は雨。熊本県八代市で49 mm/1h, 三宅島阿古で38 mm/1hの激しい雨。関東北部の宇都宮, 水戸で初雪。



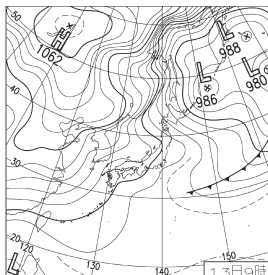
**1日(火)北アルプス槍ヶ岳なだれ**  
強い冬型の元日。日本海側を中心に大雪, 西日本では最高気温が平年より5~9℃低い所も。名古屋市, 鹿児島市などで初雪, 群馬県みなかみ町藤原70 cmの日降雪量。



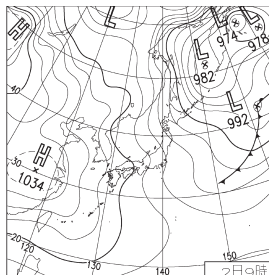
**5日(土)各地魚河岸初競り**  
南から移動性高気圧に覆われた西日本～東海は概ね晴れ。低気圧が日本海と関東の東海上を東進。北日本は日本海側の所々で雪や雨。北陸の一部は雷雨。関東は曇り後晴れ。



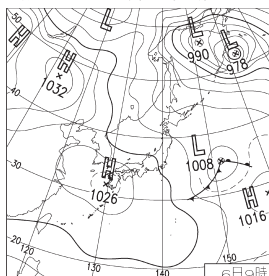
**9日(水)北日本に強い寒気**  
北海道稚内市上空約5,000 m, 21時で-45.5℃。北海道と東北北部の最高気温は真冬並。その他は3月中旬～4月中旬並。沖繩県久米島で52.5 mm/1hの非常に激しい雨。



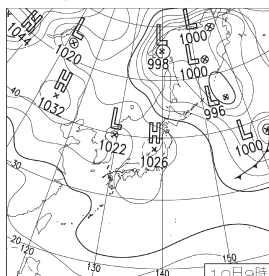
**13日(日)冬型の気圧配置強まる**  
日本海側では雪や雨を伴う荒れた天気。秋田市の最大瞬間風速は西北西の風25.6 m/s。新潟県湯沢町の日降雪量50 cm, 7日から継続していた沖繩県石垣市の夏日は途切れる。



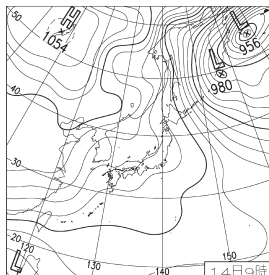
**2日(水)東京 初霜・初氷**  
冬型はピークを過ぎたが, 冷え込み強く, 北海道幕別町で-20.6℃を記録。東京は昨年より1日遅く, 初霜・初氷を観測。近畿地方では日本海の雪雲が山を越え奈良で初雪。



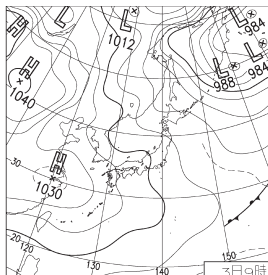
**6日(日)東日本は晴れて暖か**  
北日本や北陸は雪や雨が残ったが, 東～西日本は高気圧に覆われ穏やかな晴れ。北海道占冠村で-24.1℃まで冷え込む一方, 東日本は最高気温が3月中旬～4月上旬並。



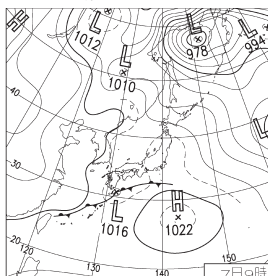
**10日(木)北日本 真冬並**  
強い寒気の影響で北日本は日本海側を中心に雪。北陸は雪や雨。他は移動性高気圧に覆われて概ね晴れ, 最高気温は3月並。奄美周辺は積乱雲が発達しやや強い雨。



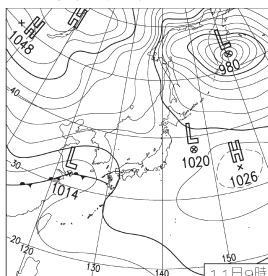
**14日(月)寒い成人の日**  
寒気に伴う雲が太平洋側にも発生し, 関東から西日本太平洋沿岸では終日曇りの所も。最高気温も九州, 南西諸島を除いて10℃以下。北日本はほぼ真冬日。



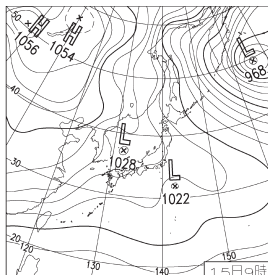
**3日(木)冬型次第に弱まる**  
東日本から西日本の太平洋側を中心に晴れて風も弱まり, 日中の気温は所により3月上旬並。一方, 北陸から東北の日本海側では, 寒気の影響で雨又は雪。



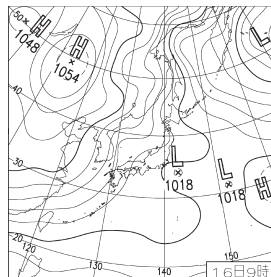
**7日(月)四国でウメ開花**  
前線上の低気圧が太平洋側南岸を東進。太平洋側の沿岸部は雨, その他北海道の一部で雪の他は晴れか曇り。四国の松山, 高松で平年より早いウメ開花の便り。



**11日(金)低気圧接近**  
前線を伴った低気圧が九州に接近。西日本～東海を中心に雨。南西諸島や関東は概ね晴れ。沖繩県は気温の高い日が続き, 那覇市は1か月ぶりの夏日。

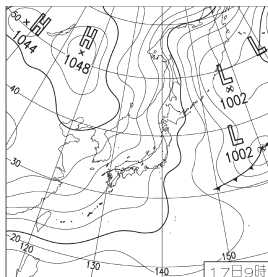


**15日(火)西日本 寒さひと段落**  
冬型の気圧配置は次第に緩み, 北日本中心に, 北～東日本は日本海側を中心に雪や雨。西日本の寒さは平年並となったが, 北～東日本は引き続き真冬の寒さ。



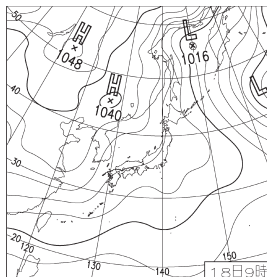
### 16日(水)東京で初雪

冬型気圧配置。北～東日本の太平洋側は概ね晴れ、日本海側で雪。鳥根県隠岐の島町西郷で8ミリのひょう。東京都心で平年より14日遅い初雪。八丈島で平年より11日早くウメ開花。



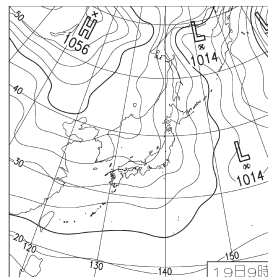
### 17日(木)関東南部で積雪

強い寒気が流入し北海道旭川市江丹別町-33.3℃を記録。24時間の降雪量は新潟県妙高市関山155 cm、富山県砺波市50 cm、関東上空まで強い寒気が入り、水戸・成田で2 cmの積雪。



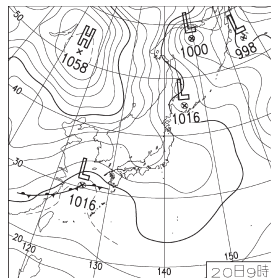
### 18日(金)伊豆大島で初雪

強い寒気が南下、稚内市上空5000 m付近で-40℃以下。最高気温は九州南部で3月上旬並の他は全国的にほぼ真冬並。伊豆三宅島雄山で初冠雪。山形県大蔵村47 cm/日の降雪。



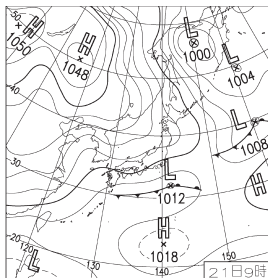
### 19日(土)網走で流氷初日

北海道では連日寒さ厳しく、旭川市宮前通東の最低気温は-25.7℃で7年ぶりに-25℃以下を記録。上川支庁を中心に-30℃以下を記録。江丹別で-34.6℃。最高気温は軒並真冬日。



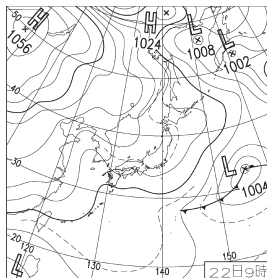
### 20日(日)西日本から雨や雪

東シナ海の前線上に低気圧が発生し東進。西日本は、雨で山治は雪。北日本は冬型の気圧配置で、日本海側を中心に雪。東日本も次第に曇が厚くなり、甲信は夜になって雪。



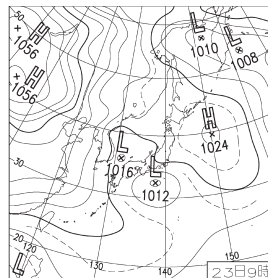
### 21日(月)寒い一日

南海上を低気圧が東進。北海道で雪のほか、西～東日本で曇りや雨、山治いで雪。「大寒」の日本列島、最高気温は平年より2～4℃低い。鹿児島県奄美市名瀬でヒカンザクラ開花。



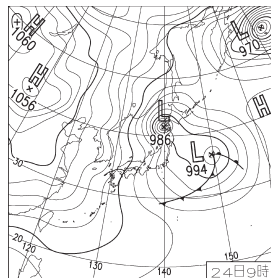
### 22日(火)西から下り坂

低気圧が四国沖に発生し本州南岸をゆっくり東北東進。九州から近畿地方は雨。寒気が残る関東地方も天気下り坂。最高気温は全国的に平年より低め。静岡でウメ開花。



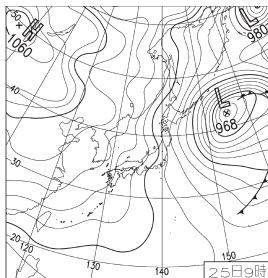
### 23日(水)関東地方で雪

低気圧が発達しながら東海沖から関東の南海上を東進。東海地方から関東地方では朝から所々で雪、熊谷市、東京都心、横浜市でもうっすら白くなり、積雪(0 cm)を観測。



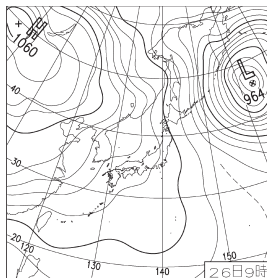
### 24日(木)北日本大荒れ

急発達した低気圧が東北北部を通過。北日本～西日本の広い範囲で20 m/s前後の最大風速を観測。北海道では15～20 cm/3 hの降雪。青森県深浦町の最大瞬間風速は西南西31.8 m/s。



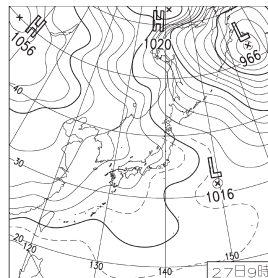
### 25日(金)諏訪湖 全面結氷

北日本や北陸の暴風雪は峠を越えたが、冬型の気圧配置は続き、日本海側を中心に雪や雨。長野県諏訪市では最低気温-13.2℃を記録。2年ぶりに-10℃を下回り、諏訪湖も全面結氷。



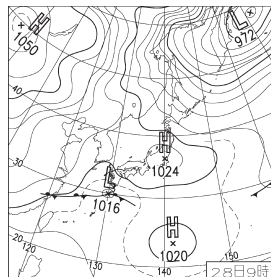
### 26日(土)輪島市 震度5弱

冬型気圧配置継続。東北の日本海側および新潟県では日降雪量が20 cmを超えた所が多く、山形県大蔵村では76 cmの大雪。千葉市で今季初の冬日。北海道網走市に流氷接岸。



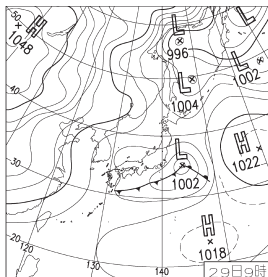
### 27日(日)寒中の寒さ続く

日本海の寒気に伴う雲域は、大陸からの離岸距離を広げているが、日本付近は冬型が持続。最高・最低気温ともほぼ寒中の寒さ。静岡県御前崎市で初雪。静岡県西部で地震頻発。



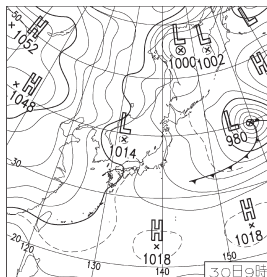
### 28日(月)四国で日中冷え込む

本州は高気圧に覆われる。九州の南海上には低気圧が発生し東進。九州の雨域は次第に東に広がり関東山治は雪。四国地方の最高気温は平年より2～5℃低め。



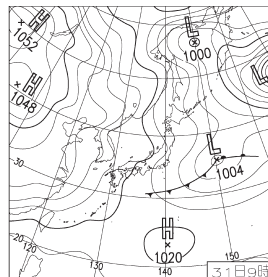
### 29日(火)西～東日本冷たい雨

日本付近は大陸からのびてきた厚い雲域に覆われ、西～東日本は雨や曇り。晴れたのは、北海道の一部、南西諸島は午前中雨、その後曇りへ。沖縄県南大東島では夏日の25.9℃。



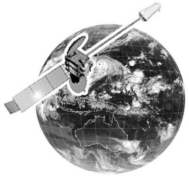
### 30日(水)北陸で雷雨

日本海を低気圧が東進。日本海側は北陸を中心に雷雨で北日本は雪。太平洋側は概ね晴れて気温が上がり、最高気温は関東を中心に3月上旬～中旬並。九州は終日雨で真冬の寒さ。



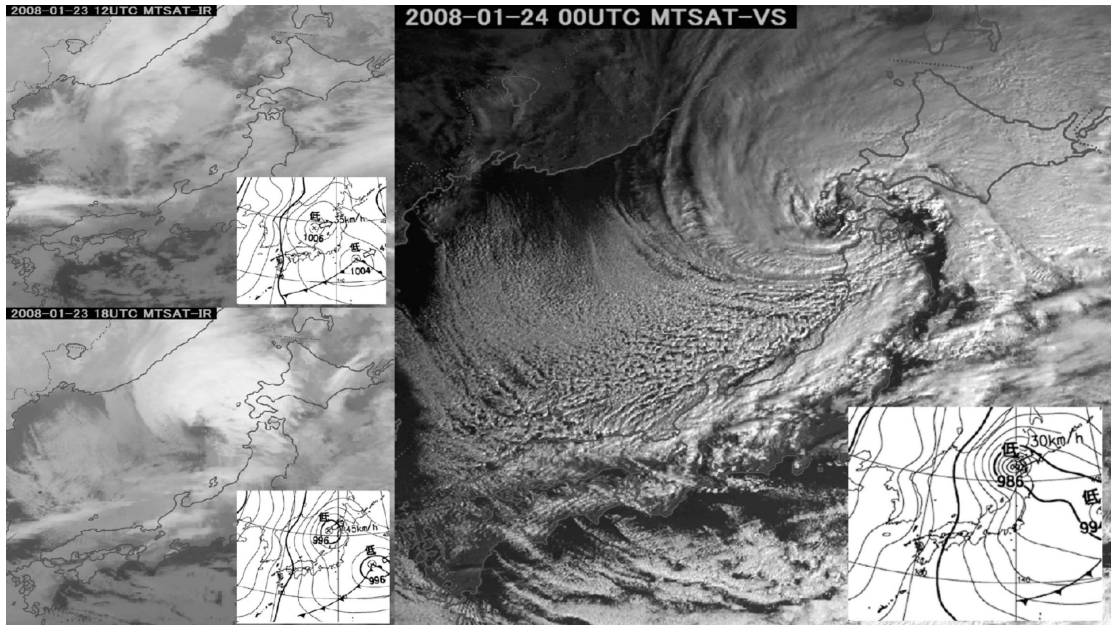
### 31日(木)寒さ逆戻り

冬型気圧配置。北日本の日本海側～北陸は20～40 cm/日の降雪。南西諸島は高気圧を回る湿った気流により雨。その他は晴れや曇り。全国の多数地点で夜になって最低気温を記録。



## 今月のひまわり画像—2008年1月

### 日本海で急発達したコンマ雲



1月23日21時(左上図), 24日3時(左下図)の赤外画像, 1月24日9時の可視画像(右図) および地上天気図

寒候期には低気圧が日本付近で急速に発達することがある。1月23～24日にかけて、コンマ雲(対流雲から成るコンマ状の雲)を伴った低気圧が急速に発達しながら日本海中部から北海道南部付近を通過し、北日本を中心に大荒れの天候となった。

23日21時(日本時間)の赤外画像(左上図)では、日本海中部に南北に延びる線状の活発な対流雲列が見られる。6時間後の24日3時の赤外画像(左下図)では、雲域はコンマ形状が明瞭化しコンマ雲に発達した。コンマの頭部分は、雲頂高度が高い厚い雲域となっており、この雲域が通過した北海道南部では大雪となり、24時間降雪量(23日9時～24日9時)は北海道檜山支庁今金で42 cmに達し、札幌でも30 cmを観測した。24日9時の可視画像(右図)では、コンマ雲は雲域をさらに拡大し、渡島半島の西海上には低気圧

の中心に対応する下層渦が明瞭化しており、コンマ雲が最盛期であることを示唆している。下層渦の周辺では特に風が強く、青森県深浦町では、24日7時59分に最大瞬間風速31.8 m/sを観測した。

日本付近(主に日本海)で発生するコンマ雲は、大陸から進んできた強い寒気が暖かい日本海に流入して急速に発達するため、雲域の発生から最盛期に達するまでの時間が短い場合が多い。日本海にコンマ雲が発生した場合は要警戒である。

なお、世界気象機関では、中心気圧が24時間で、 $24 \text{ hPa} \times \sin(\text{緯度}) / \sin(60^\circ)$ (例えば $40^\circ \text{N}$ で18 hPa)以上低下する低気圧を「bomber low」と定義している。本事例の低気圧も24日9時までの24時間で30 hPaの急発達となった。

(気象庁予報部予報課 池田博文)